

わたしは、この夏、しと土砂災害

福井市足羽第一中学校 三年 不破 俊茂

私は山登りが趣味で昔から文殊山や近所に
あり横山などの身近な山から立山や乗鞍岳も
登ったことがある。元々中で印象に残って
いる山がある。それは「刈込池」だ。急勾配
な岩場コースと比較的緩やかな岩場コースの
2つがあり、私はよく緩やかなコースを選び
秋に道中、きれいに様々な色に染まった木の
葉や、壮大にえびえ立つ崖を見ながらゆっく

り登るのがお気に入りだった。緩やかとはい
った。でもだいたい急な部分もあり、かなりきつ
かった。それでもここは休憩しながら登
るとついに山頂にたどりつき、きれいな刈込
池が目に入った。水はとも澄んでおり、鏡
のようになっただけで遠くにえびえ立つ三ノ峰
と真っ青に染まる空、紅葉の木々が反射しま
るで地面にもう一つの世界が広がっているよ
うに思えるくらいきれいだった。そこで昼食
を食べ下山したあと体は疲労困憊だった。

不思議となんともいえぬ達成感が込み上げて
きた。こんな体験は他ではできないと思っ
た。来年も登りたいな。えんなことを思っ
ていたときだった。こんなニースが自分の目
に飛びこんできた。二大野で大規模山腹崩壊
と打波落橋、県道復旧見通せずというニ
ースだ。冬季通行止め解除に向け、雪かき作
業をしていた業者により橋が崩落しているの
が発見された。その結果、刈込池は気軽に行
ける場所ではなくなっってしまった。当時、え

の周辺に人はいなかったため、ケガ人等は発
生しなかったものの土砂災害がいかに危険な
ものか分かった。以前がう日本は土砂災害が
多いと聞いていたの。で実際、年間にどれくら
い発生しているか国土交通省のウエブサイ
トで調べてみたところ、なんと令和5年のもの
だけで約1500回も発生しており、今まで
なんともなく現実味がなかった災害がこんな
にも身近なものに実感できました。同時に、もし今
住んでいる町でえんなことが起きたらどうし

ようど恐怖がこみ上げてきた。
このいつ起こるか分からない災害から身を
守るために私は次の3つが大切だと思う。
まづ1つ目は、ハザードマップを確認し、
家族同士で話し合い、避難経路と避難場所を
事前に把握しておくことだ。災害はいつ起こ
るか分からない。元々災害にあつたとき家
族同士で危険な場所や避難場所を共有してお
くことにより、家族の心配をあまりすること
なく、危険な場所を避け、万が一はぐれ
しまったり大人がいない場合でも円滑に避難
行動がとれますから。
2つ目は、非常用持ち出し袋の準備だ。水
や常備菓等に加えモバイルバッテリー等も持
っていけるようにする。避難所では保存食や
トイレ等の生活必需品の数は限られてい
る。そこで避難時にこれらの物を入れた持ち出し
袋を持つていくことにより、安心して避難所
で生活できます。
3つ目は、早め早めの行動を取ることと情

報収集する事だ。特に豪雨時は危険だ。な
せなら雨により地盤が不安定となり、水分を
含むことにより摩擦力が弱くなり地面が滑り
やすくなるからだ。だから台風や近年ふえ
いる線状降水帯時にはテレビ、ラジオ等を使
い情報を集め、早め早めの行動を心がけろこ
とが重要だ。

この中で特に気をつけたいものがある。元
来は3つ目の「早め早めの行動」だ。いくら
情報を収集、対策しても逃げ遅れては、元も

子もない。私はこれを体験しうにな、たこ
とがある。元の時々は、家の中にいても恐怖
を感じるくらいの大雨と強風が吹いていた。
元々テレビのナイト放送で自分が住ん
でいる所に避難情報が出ていることに気付い
た。それを私の保護者に言ったのだが、「ど
うせここに居ないから大丈夫」と言っ
た。結局、自分の家は災害にあうことはな
った。ただ、私は本当にこれでよいのかと思
う。今回はたまたま洪水にならなかったが、

もしな、ていたら逃げるのが遅れて避難所に
たどり着かなかつたのではないだろうか？
ま、とこない、前は大丈夫だったから今回
も大丈夫、え、う、い、た、慢心が破滅への道だと
思う。

災害はいつどこで起こるかわからない、だ
からこえ日頃からの備えが大事になつてくる。
自らの命を守るため、テレビ等で放送された災
害を他人事ではなく、自分事として捉え、日
頃から災害に対する意識を高め、いつ災害が
起、ても対処できるように備えをし、おこ
うと思。